



にぎわい通信



—日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信—

会員だより

＜小木町＞

～新潟県佐渡郡小木町の健康保養センター「おぎの湯」の紹介～

我が小木町は、日本海のほぼ中央に浮かぶ離島、佐渡ヶ島の最南端に位置し、三方海に囲まれた海岸段丘地帯で形成され風光明媚な半島の町である。また、歴史遺産が多く伝統芸能華やぐ文化かおる、人情風俗豊かな港町でもある。

小木町の総面積は、25.95平方キロメートルで、佐渡ヶ島全面積854.83平方キロメートルの約3%と10市町村（1市7町2村）で1番小さい町である。

この我が町に、町営の温泉施設、健康保養センター「おぎの湯」が建設された。

佐渡島内には、6町1村に各1施設、7ヶ所の公営温泉施設があるが、島が広いので各施設は山や田畑に囲まれているため、日本海が眺められる施設は我が「おぎの湯」のみである。

大浴場からの越佐海峡（佐渡と本土の間）の眺めは本当に素晴らしい。日本海にぎわい交流の主役である、色々な国の船籍を持つ客船、貨物船、タンカー等の大型船や漁船等が、北海道方向へ九州方向へと航行して行くのが湯船より良く見えるのである。

更に、遠くには、米山、角田山、弥彦山等、越後（本土）の山々がパノラマの様に広がり、近くは、県営第2種小木漁港と重要港湾小木港が手に取る様に眺められるのである。

自然豊かな日本海の荒海（時化）は、古代と変わらないと思うが、冬期間の連絡船欠航は離島のハンデイを毎年知らされる。しかし、春が来るから我慢ができるのである。

この素晴らしい田舎町を過疎、市町村合併、地方分権と言う社会の大波が、今、



駐車場より健康保養センター「おぎの湯」



展望良好、天然の良港、小木港と小木漁港

押し寄せているのである。

そこで、最近の不況と言う大時化の時は、温泉でゆっくりと多くの住民や観光客の皆さんと語り合い交流と休養をして、時代を乗り切ってみてはいかがでしょうか。

連絡先 〒952-0604 新潟県佐渡郡小木町大字小木町 1494-6

TEL 0259-81-4111 FAX 0259-81-4112

入浴料 500円（回数券の場合375円）

宿泊 5,000円（素泊まり）団体割引 4,000円

会員だより

＜両津市＞

両津市は、新潟県の佐渡島東部に位置し、古くから漁業や港湾都市としての歴史を持ちます。両津港は、明治元年には、夷港が新潟港の補助港として開港し、その後昭和26年には重要港湾に指定され、佐渡最大の海上輸送拠点としてにぎわっています。



両津港

○概況

佐渡島は、面積854平方キロで、東京23区の1.5倍、離島では日本一大きな島です。本土との交通アクセスは、新潟市からカーフェリーで2時間20分、高速ジェットfoilで1時間、空路で25分です。気候は、佐渡沖を流れる対馬暖流の影響で、四季を通じて温暖で積雪も少なく、冬は暖かく夏は涼しい土地柄です。島内には1市7町2村あり、両津市は佐渡唯一の市で、政治・経済・交通の中心となっています。人口は、昭和30年の30,619人をピークに年々減りつづけ、現在は17,000人余りとなり、過疎化が進んでいます。

産業は、第一次産業の農業・漁業が基幹産業ですが、近年は観光関連のサービス業を中心とした第三次産業が大きなウエートを占めるようになっていきます。

○みどころ

本市は、その大半が佐渡弥彦米山国定公園及び新潟県立自然公園に属し、海あり山あり湖ありと自然景観に富んだ地形とともにスキューバダイビングにも最適です。北端の外海府は男性的で社大な海岸美が特徴で、その代表が全国海水浴八十八選に認められた二ツ亀海水浴場や日本一といわれる大野亀のカンゾウの群生地があげられます。



スキューバダイビング

また、東海岸は女性的海岸美が特徴で、現役の鉄製灯台として日本一古い姫崎灯台や日本三大弁天といわれる風島弁天や県指定の天然記念物、杉池の広葉樹林などがあげられます。

この他にも、佐渡の広さを実感できるドンデン高原からの眺望や四季折々の花の

群生、県下一の広さを誇る加茂湖の景観、道の駅「能楽の里」、などがあげられます。

【まつり・イベント】

両津は、港町の風情と汐の香漂う祭りやイベントが多くあります。その中で主な祭りをひろってみました。

- ◇ 4月・両津大漁まつり
- ◇ 5月・天領両津市薪能（10月まで毎月第1土曜日「8月除く」）
・両津湊まつり ・鬼太鼓イン佐渡 ・赤玉杉池まつり
- ◇ 6月・佐渡カンゾウまつり ・両津まつり「全国おけさ踊り大会」
- ◇ 7月・水中七夕まつり「スキューバーダイビング」
・本間家定例能
- ◇ 8月・両津七夕川開き
- ◇ 9月・久知八幡宮例祭
- ◇ 10月・竜王エビ、カニまつり
・佐渡さかなまつり
- ◇ 11月・水中クリスマス（スキューバーダイビング）
- ◇ 12月・海府寒ブリ大漁祭り
- ◇ 2月・加茂湖カキまつり

尚、両津港湊地区に完成した野外劇場を併設した大型休憩所では、様々なイベントや催事が荒天時にも利用でき、災害時には避難場所としての防災公園の機能を持った緑地として、市民並びに島民の交流の場として広く利用されています。



鬼太鼓



七夕祭り



エビ・カニ祭り



さかな祭り

○文化

一般的に佐渡は、北陸や西日本の影響を強く受けたといわれています。これは、西回り航路が開かれてから、西日本の文化や北陸の文化が直接佐渡に入ってきたことによります。これにより、佐渡の文化は、流人たちがもたらした貴族文化、江戸から持ち込まれた武家文化、商人や船乗りたちが持ち込んだ町人文化の3つの形があるといわれ、これらが混然一体となって佐渡独特の文化をはぐくんでいます。

その1つに能があります。現在佐渡には34の能舞台が現存（本市は6ヶ所）し、その大部分が神社の拝殿と兼ねたものや付属したものとなっています。かつてはここで毎年決められた日に能が奉納されていることから、佐渡の能が神事能として始まり、庶民の手で村々の鎮守の祭りとして広がったといわれています。

本市では、庶民の文化としての能を気軽に味わっていただくため、毎年5月から10月まで毎月第1土曜日を基本に「天領両津市薪能」を開催しています。

○食

両津は食の宝庫でもあります。コシヒカリ米、おけさ柿など農産物やイカ、ブリ、エビ、蟹、牡蠣などの魚介類を四季折々楽しむことができます。

特に10月から翌年の2月にかけて、エビカニまつりを皮切りに、カキ祭りまで、その時々のおまつりに参加することにより、旬の味覚が堪能できます。



イカ

編集後記

今回は、会員だよりが2件とも佐渡の市町村から提供していただいて、佐渡の紹介のような「にぎわい通信」になりました。実は、私は新潟に住みながら、まだ佐渡へは行ったことがありません。今回の記事を読んでいると行ってみたいなくなってきました。新潟市からそれほど離れていないとも書かれていたので、機会を見つけて行ってみたいと思っています。

――編集・問い合わせ先――

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

北陸地方整備局 港湾空港部

海域環境・海岸課

〒951-8545 新潟市白山浦1-332

tel : (025) 265-7783

Fax : (025) 230-3680